

三中全会を経た中国 の内政、外交

APIRフォーラム「岐路に立つ中国と東アジア諸国経済への影響」

2024年8月29日

東京女子大学 高原明生

中国政治の二本の軸

- 横軸

エリート政治——指導者間の権力闘争、官僚政治等
習近平の権力基盤は揺るがず。しかし・・・

- 縦軸

中国共産党と庶民との関係
ゼロ・コロナ政策の失敗以降、これまでにない動揺

2024年7月、三中全会開催

「さらなる改革の全面的深化、
中国式近代化の推進に関する
中共中央の決定」を採択



- 三中全会とは？

第三回中央委員会全体会議（中央委員会は5年1期）
通常は党大会の翌年秋開催、改革の青写真を決定

（写真は 人民網 http://paper.people.com.cn/rmrb/html/2024-07/19/nw.D110000renmrb_20240719_1-01.htm） 3

三中全会をめぐる様々な不思議(1)

- なぜ開催が遅れたのか
- なぜ李強総理が決定起草小組に入らなかったのか
組長—習近平、副組長—王滬寧、蔡奇、丁薛祥
- 新華社の記事「改革家習近平」はなぜ削除されたのか
- 前外相の秦剛はなぜ処分されなかったのか

三中全会をめぐる様々な不思議(2)

- 「2013年に決定された改革任務を総体的に完成させた」と自己評価しているのはなぜか
- 「中国式近代化」とは結局、何なのか
- 「共同富裕」、「不動産税」にほとんど言及がないのはなぜか
- 抵抗勢力を排除せねば、改革は進まないのではないか

縦軸の揺れ

- ゼロ・コロナ政策への怒り

「不要核酸、要喫飯；不要封控、要自由；不要谎言、要尊嚴；不要文革、要改革；不要領袖、要選票；不做奴才、做公民」「罷工罷課罷免独裁国賊習近平」「白紙運動」

- 経済減速と「絶望」感

若者の失業率上昇(6月13.2%、7月17.1%)、住宅価格の下落、地方政府の罰金取り立て・・・寝そべり族、海外移住

中国の国家目標

- 真の世界強国になる

習近平「陸権と海権の両方を兼備した強国こそ真の世界強国……海洋強国を作り上げ、陸権国家から陸権海権兼備国へと歩みを進めることは重大な戦略的決定である」(2017)

「我が国は国際社会の中心に日増しに近づいている」(2021)

←立ちはだかるのは、米国

習近平「米国は我が国の発展と安全保障にとっての最大の脅威」

中国外交の方向性

- 一つの中心 米国との戦略的競争に勝利する
- 四つの基本点
 - 1) それと同時に当面は対米関係を安定させる
 - 2) ロシアを支える(6月ゼ大統領中国批判、7月外相訪中)
 - 3) 日欧と協力し、その対米自立性を高めさせる
 - 4) いわゆるグローバルサウスの支持を広げる

グローバルサウスへの接近例

- **2023年10月 第3回一帯一路国際協力ハイレベルフォーラム**
習近平「象徴的な事業も継続。だが小さくても美しい、現地の人に身近な民生事業を対外協力の優先事項に」
- **2024年9月 中国アフリカ協力フォーラム(FOCAC)**
「ハイレベルな中国アフリカ運命共同体を構築しよう」
- **2024年1月～ BRICS拡大**
エジプト、エチオピア、サウジ、UAE、イラン、~~アルゼンチン~~
←マレーシア、タイも参加申請へ

台湾侵攻はあるか？——暫くは可能性低い

民進党の頼清徳、蕭美琴 2024年5月 総統、副総統就任
(立法院は国民党が第一党、民衆党がキャスティング・ボートを)

中国の政策に大きな変化なし

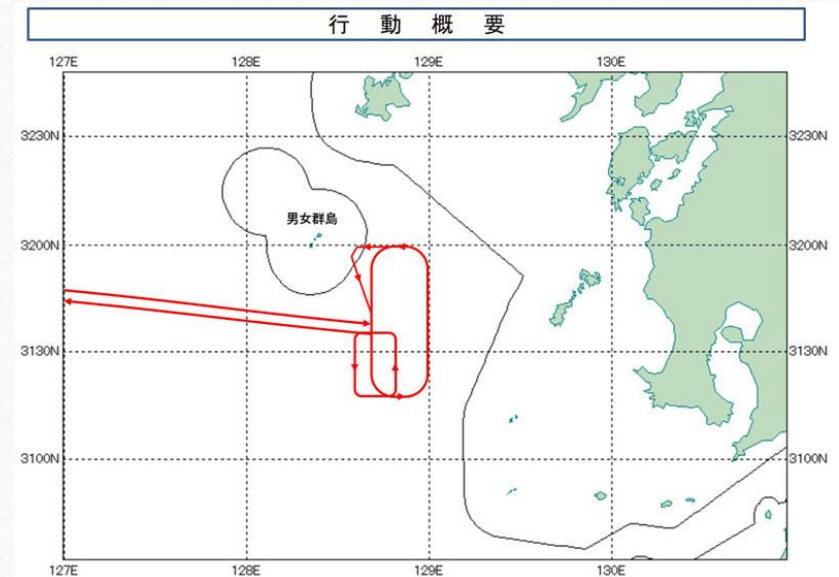
軍事的圧力、経済、文化交流を継続

懸念は米国の台湾接近。台湾が米中、日中の焦点化

習の最優先事項は体制維持——それに+か-か冷徹に判断

対日関係——まだら模様

- 2023年11月 日中首脳会談
- 5月 日中韓首脳会議開催
- 7月 海自護衛艦、中国領海を航行
- 8月 アステラス社員を起訴
- 8月 中国軍機、日本領空を侵犯
- 8月 日中友好議員連盟訪中



日中関係——今後の展望と課題

- 競争と協力の同時進行が必要、それは暫くは継続
関係安定の困難は増大——競争は激化、協力は深化
矛盾に耐える、**戦略的忍耐が必要**——**中国が変わるまで**
あらゆる手段で平和を維持(現実主義、自由主義、構成主義)
- 関係の強靱性強化のための対話と協力の増進を
- 関係の脆弱性抑制のための課題——**認識ギャップの縮小**